

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

本日（27日）15時20分から15時24分にかけて、空振を伴う低周波地震が発生しました。今後の火山活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

本日（27日）15時20分から15時24分にかけて、空振を伴う低周波地震が3回発生しました。火山性地震は16時まで合計7回発生しましたが、その後観測されていません。傾斜計には、低周波地震に対応するような変化はみられません。噴気等の状況は視界不良のため不明です。

2017年8月10日にも空振を伴う低周波地震が発生し、北陸地方整備局の監視カメラにより、黒谷火口からの弱い白色の噴気を観測しました。その後、黒谷火口からは時々弱い白色の噴気を観測しています。

本日発生した低周波地震の振幅は、2017年8月の低周波地震の半分程度でした。

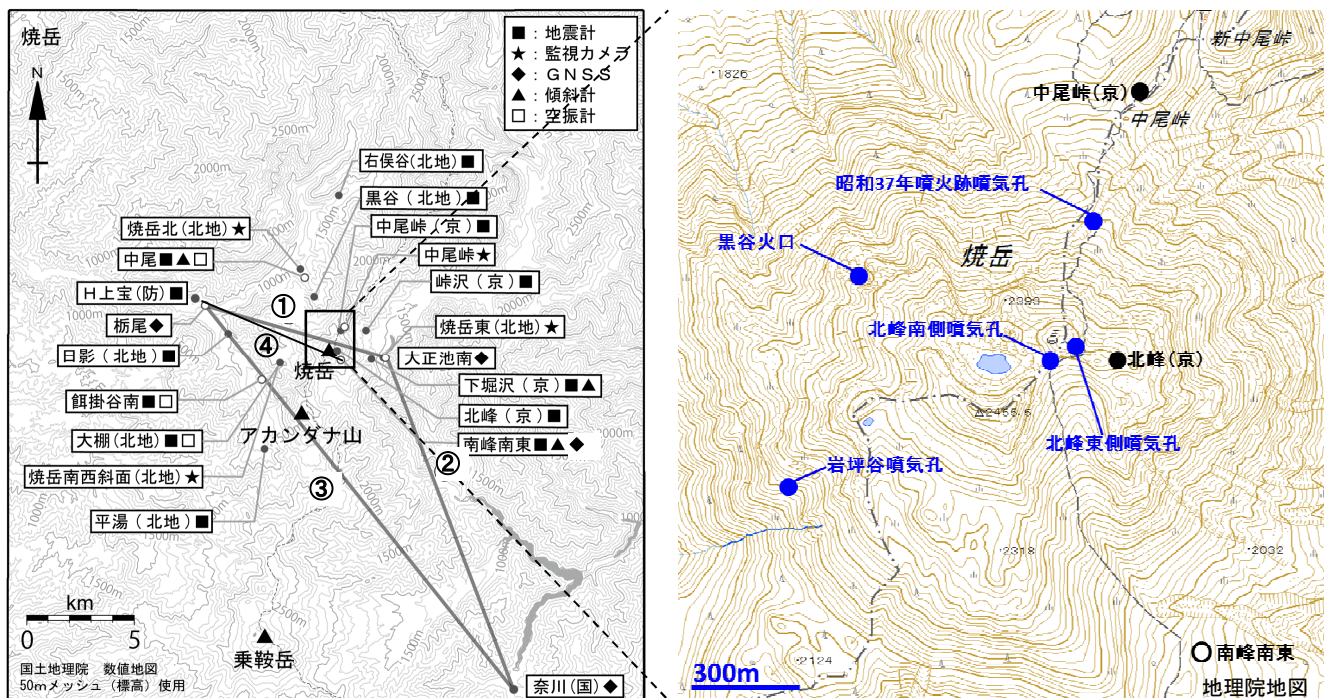


図1 焼岳 観測点配置
・GNSS基線①～④は図5の①～④に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2万5千分1地形図』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

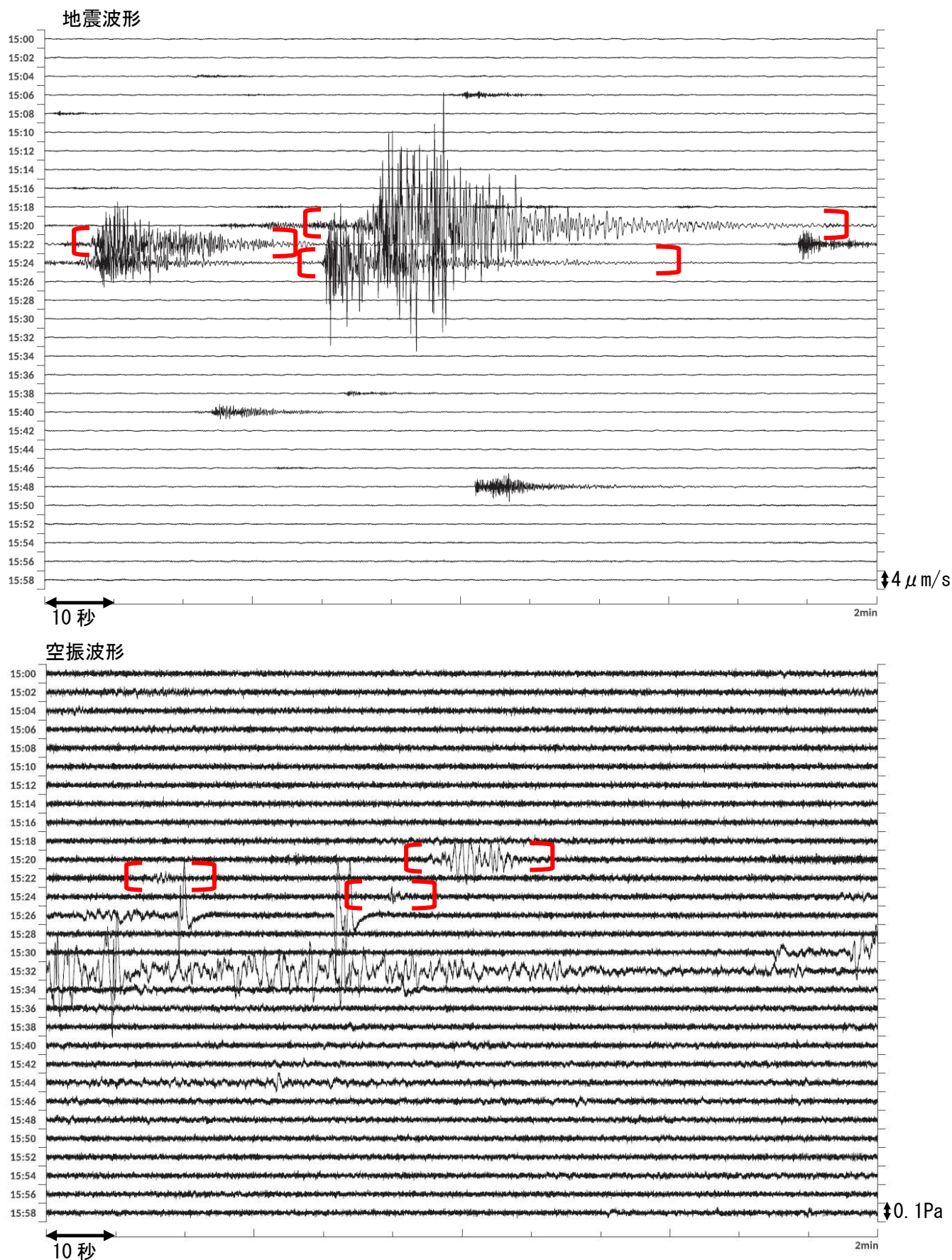
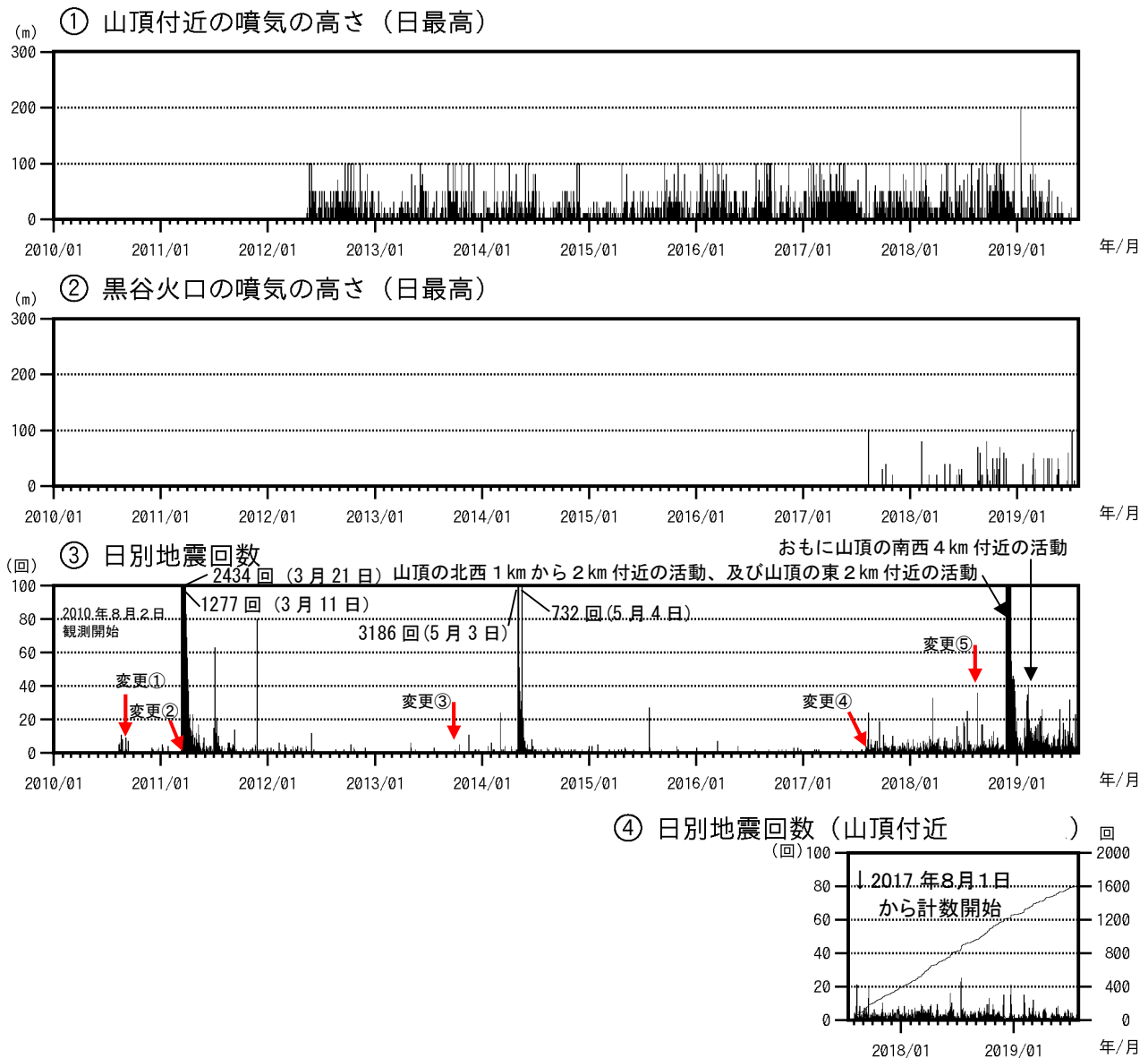


図2 焼岳 地震および空振の波形 7月27日15時00分～16時00分
 (地震(上): 焼岳南峰南東観測点上下動 空振(下): 焼岳中尾観測点)
 ・15時20分から15時24分にかけて、空振を伴う低周波地震(赤括弧)が3回発生しました。



【地震の計数基準の変遷】	開始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 2秒以内
変更①	2010年9月22日～2011年3月10日		中尾振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更②	2011年3月11日～2013年9月30日		中尾振幅 $3.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更③	2013年10月1日～2017年7月31日		中尾振幅 $2.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更④	2017年8月1日～2018年7月31日		中尾振幅 $2.0 \mu\text{m/s}$ 以上及び 南峰南東振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更⑤	2018年8月1日～		南峰南東振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
ただし、2018年11月24、25日は、一時的に南峰南東 $30 \mu\text{m/s}$ 以上を計数対象			

図3 焼岳 噴気の高さと地震回数の推移(2010年1月1日～2019年7月27日)

③2017年8月以降は山頂付近の微小な地震も計数しています。図中の赤矢印は計数基準の変更を示します。

④山頂付近の地震とは、南峰南東観測点の上下動成分で $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上の振幅を記録し、焼岳山頂付近の概ね海抜0km以浅が震源と推定される地震のことです。

- ・山頂付近の地震活動は低調に経過しています。
- ・2018年11月下旬以降、焼岳周辺のやや深いところを震源とする地震活動が時々みられていましたが、その後、低下しています。
- ・2月上旬頃より山頂の南西4km付近のやや深いところを震源とする地震が増加し、その後減少していますが、低調ながらも地震活動は続いています。

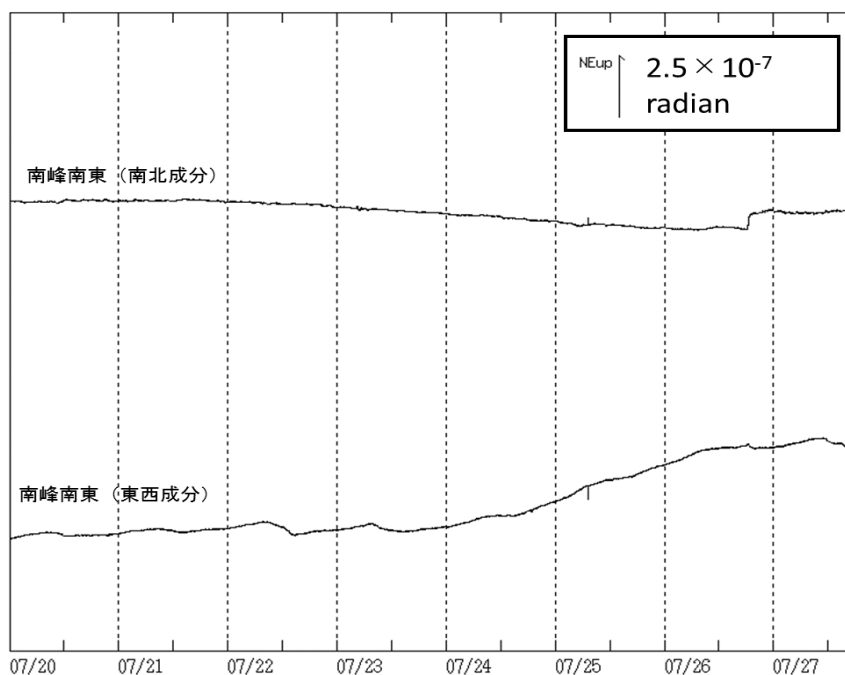


図4 焼岳 傾斜計の状況（7月20日00時00分～7月27日17時40分 補正分値）
・傾斜計には、低周波地震に対応するような変化はみられません。

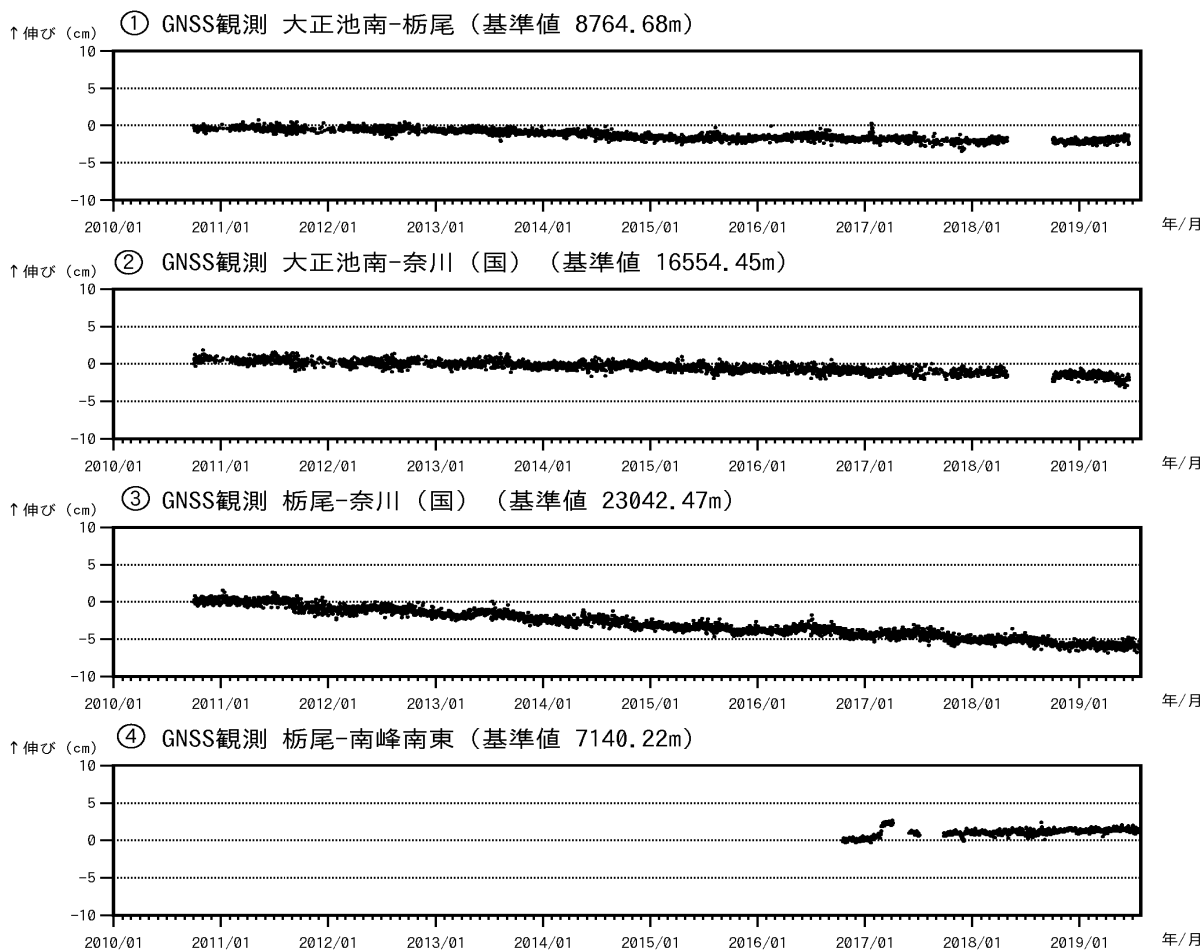


図5 焼岳 GNSS 連続観測による基線長変化（2010年10月1日～2019年7月27日）
図1のGNSS基線①～④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。（国）は国土地理院の観測点です。
・GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。